

水爆大怪獣 ゴジラ(初代)

バンダイ 1/250スケールプラスチックキット

製作・文: 政府開発援助

1. 初代ゴジラについて

二百万年前(註)・ジュラ紀より海底で生息し続けてきた大型海棲動物が度重なる水爆実験の影響で放射能を帯びたもの、とされている。初めて上陸した地・大戸島の伝説の怪物「呉爾羅」にちなんで古生物学者の山根博士により命名された。東京に上陸したゴジラはその怪力と口から吐く放射能を帯びた怪光線により周囲を蹂躪したが、東京湾に潜んでいるところを山根博士の弟子である芹沢博士が開発したオキシジェン・デストロイヤーの威力により絶命、白骨化した。だが、このゴジラは最後の一匹ではなかった...

註:「ジュラ紀」は地質学上は約2億年～1億4千万年前を指すが、劇中の説明を尊重しました。

2. キットについて

バンダイの「The特撮コレクション」シリーズは1/350スケールで展開されていましたが、この初代ゴジラだけは1/250で、同シリーズで既発売のモスゴジ(「モスラ対ゴジラ」版ゴジラ)のリターンマッチ的キットでもあります。大サイズを活かして迫力あるポーズを再現しており、「怪獣王」と呼ぶにふさわしい風格すら感じさせます。シリーズ定番の「オマケ」として同スケールのF86Fが2機付属する他、破壊された市街地のベースも同梱されています。なお、ゴジラ本体は頭部と腕を新規追加してVSモスラ版として再版されましたが、ベースとF86Fのあるランナーはオリジナルのこのキットのみに付属します。

3. 製作と塗装について

ポーズの変更とそれに伴う体表面モールドの復元に殆どの時間を費やしました。キットのゴジラは原型担当の速水氏の躍動感あふれるポーズを忠実に製品化しておりこれはこれでカッコ良いのですが、初代ゴジラのポーズについてはもう少しおとなし目の印象があるので(これは初代ゴジラの着ぐるみが重く動き辛かった為)、体のひねりを控えめにし、くると跳ね上がった尻尾は短くしてみました。

工作の結果失われた(若しくは金型成型の限界から再現されていない)体表モールドについては、思案の末(1)細くこより状に伸ばしたエポキシパテを貼り込んでいく(2)エポキシパテを薄く伸ばした後、ヘラ等を用いて寄せるようにしてヒダを作っていく(3)エポキシパテを薄く伸ばした後、スポンジ等を押当ててザラザラした面を作る、の3つの方法を組み合わせて復元しました。ちなみに脚・尾の太いところは主に(1)、腕・尾の細いところは主に(2)、首周辺は主に(3)です。

本体は基本色としてガンダムカラーのファントムグレーをスプレー吹きし、ラッカー系のグレー3色程度を用いて凸部分にドライブラシ(上面が明るめになるように)を行いました。背ビレは白サフの上から先端部を残すようにしてラッカー系のグレー6色程度を用いてドライブラシ(付根が暗めになるように)した後、夜光スプレーの青色を吹きました。細部は主にラッカー系カラーを用いて筆で塗り分けています。最後に足回りを中心にタミヤのウェザリングスティックで土ぼこりを表現してみました。



明るい状態



暗くした状態

4. 製作過程



顔を正面近くに向ける為
バランスを調整。目玉はく
り抜いて手芸用ビーズに
交換。



尻尾を一節縮め、ポーズ
をおとなし目に変更。失わ
れている体表モールドをエ
ポキシパテにて復元。



背ビレにはドライブラシ塗
装の後、夜光スプレーを
吹いている。



ベースはキットのパーツと
プラ板・石粉粘土を組み合
わせて自作した。